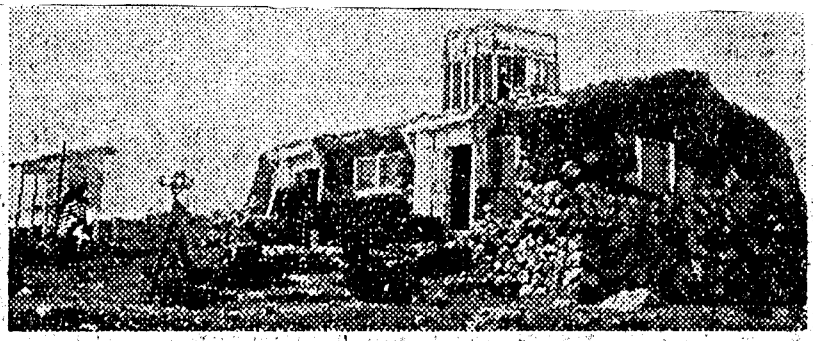

夏の山頂觀測所

昭和 9/8/1.9

富士山頂の觀測所 閉鎖の難を免る

三井報恩會から七千圓

東朝

つい先頃癌研究所のラヂウム購入に百萬圓を投出した三井報恩會では資金難で今年から閉鎖する外はあるまいとされてゐた富士山頂の觀測所に約七千圓を補助して甦生させることになつた

山頂の高空氣象觀測は明治二十九年有名な野中到夫妻の手で開始されてから幾度か中止をしたり再開したりの有樣で、時にふれ有志の援助を受けて

細々 と續けられて來たものだが、近年は冬期の雪中觀測も開始され、航空氣象の研究には必要欠くべからざるものとなつて來たばかりでなく、上層の風向きがよく判るところから天氣豫報の生命線、長期豫報——今年の夏は暑からうとか涼しからうとかの豫報——にも重大な關係があることさへ判つて來たところが昭和七年七月から八年八月までは特に『極年』であるところから文部省で臨時費を支出して呉れたがそれ以後はどこからも費用の出所がない、苦しいふところの無理をして八年の冬はどうにか續けて來たものだが今年こそはどうにもならぬといふことになつてゐたところなので、金額は僅七千圓でも三井報恩會の補助は全く高空氣象觀測の生命の親である……と氣象台では大喜び、この七千圓は總て

冬籠 り連中の食料、薪炭代、人夫賃として支給されることになつてゐる、藤原博士は話るこの一年だけ續ければその内には文部省も仕事の必要を認めて豫算をとつて呉れるやうになるだらうと思つてゐますが、一度中止になつたら中々再開は難かしい、全く救ひの親ですよ！